

掛川茶未来創造プロジェクト概要

令和4年度～令和8年度

目指す姿

10年後も掛川が世界に誇れる「お茶のまち」であるために

現状と課題

- リーフ茶需要の減少、茶価の低迷による茶生産者の経営悪化
- 市内茶経営体数
536経営体（令和2年）
15年で1,415経営体（7割）減少
- 市内経営茶園面積
1,114ha（令和2年）
15年で570ha（3割）減少
- 生産者平均年齢
64.4歳（60歳代以上が7割超）
- 後継者の有無
約8割がなし
- 生産者の経営状況
約7割が悪く廃業を検討

茶生産者の現状は極めて厳しい。10年後に掛川が茶産地として存続しているか危ぶまれる。今が「有事」であることを認識し、茶産地として持続的に発展するための積極的なチャレンジと大胆な構造改革が急務。

重要指標

持続可能な掛川茶生産を可能とする茶園面積及び茶産出額

経営茶園面積

現状1,114ha ⇒ 目標1,000ha

生産及び流通の構造改革、基盤整備、担い手の育成等を徹底して行い経営面積の減少にブレーキをかけ、掛川茶の持続に必要な茶生産量を確保する

茶産出額

現状31億円 ⇒ 目標40億円

有機栽培茶及び碾茶製造の拡大、茶商と連携しての計画生産の実施、輸出の促進、リブランディングによる消費拡大策の推進等により収益性を向上させ、生産者の経営を安定化させる。

※目標年：令和8年度

課題解決のための施策

【生産】茶産地掛川を支える一次産業の所得向上

- ①持続可能な茶生産体制・基盤の再構築
 - ・組織経営体の育成
 - ・基盤整備の積極的実施
- ②需要に応じた茶生産への転換
 - ◎有機栽培の拡大
 - ・碾茶製造に向けた取組強化
- ③環境に配慮した茶生産体制
 - ・世界農業遺産の活用
 - ・みどりの食料システム戦略対応

【流通】時代を先取りする流通構造への転換

- ①茶の流通構造改革
 - ◎持続可能な荒茶取引（茶業版フェアトレード）環境の整備
- ②消費者ニーズに対応した商品開発
 - ・消費者の生活様式に対応した商品開発
- ③海外輸出への対応
 - ・生産者も含めた輸出推進体制の構築

【消費】茶産地掛川の持続を可能とする消費拡大策の推進

- ①掛川茶のブランド力強化と効果的な情報発信
 - ◎掛川茶リブランディングプロジェクトの推進
- ②コト（体験等）の充実化による消費拡大
 - ・お茶に関する体験メニューの充実化
- ③緑茶効能の有効活用
 - ・緑茶効能に関する情報発信の充実化